

## 福島県相馬郡飯館村における農地の現地調査報告書

1) **山に仕掛けた表土トラップを見に行く** Csは粘土鉱物中で非常に強く吸着され、一度吸着されると引き離すのは容易ではない。従って表土に強く吸着されたCsは雨が降ると土と共に流れていく。表土トラップとは流れた土壌をトラップしてその放射線量を測定し、山からCsがどの程度流出するのかを調べるために山の斜面に設置したものである。実際に見学させていただいて上記のような説明もあったため非常に勉強になった。

2) **ふくしま再生の会のかたと話す** ふくしま再生の会のかたが活動拠点としている菅野さんのお宅におじゃまさせていただいた。そこで福島に住む人が現在置かれている状況に関しても聞く機会があった。2026年3月を目処にして土地を元に戻して住めるようにするという話もあるが、それはごく限られた範囲であり本当に住むしかできないそうで、住居が確保されたところで薬草とりや農業など生産活動が営めなければ生き甲斐も無いし、第一生活ができないというお話を伺った。私自身住む場所が確保できていればという考えがあったので、自分の考えの浅はかさに気づかされたと同時に、田畑や山に安心して立ち入れるように復興することの重要性を感じた。

2) **実験に使用した田畑を見学する** 凍土はぎ取りを行った田んぼ、現在実験に使用するイネを育てている田んぼ、サツマイモを育てている畑を見せていただいた。イネは作付け禁止区域に植えているため、作付けの際たとえ実験目的でも植えてはならないと行政のかたに厳しく止められ、脅されたりもしたという話を伺った。イノシシやサルが田んぼに来て困るといった、現場でしか知り得ないような情報も得られた。しかし色々話を聞いた中でも、特に印象に残っている話がある。それは健康アドバイザーが来て「放射線は危ないものではないから避難しなくても大丈夫」という話を長い時間かけて話していったことにより一時的には安心したが、そのすぐ後に避難勧告が出されたという話である。菅野さんは、福島に住んでいる人たちをただ黙らせようとしただけだったのかと話してくださり、実際の声を聞いてその裏切られたような不信感や怒りがひしひしと伝わってきた。そして話を聞きながら同時に健康アドバイザーの立場に自分が立ったらどうするだろうかとも考えさせられた。避難勧告を出すかあやふやな状況で派遣されたら福島の人たちを安心させようとするあまり、自分も事実のみを伝えるべき立場であるにも関わらず、安全であるという方向に偏って説明してしまうかもしれない。なんとなく自分に向けられた言葉のような気がして、役割を本当に理解して全うすることの難しさや責任を感じた。そして自分も反省しなくてはならないと考えた。

4) **全体を通じて** 震災があってから福島に足を踏み入れるのは初めてであったが、最初意外と他と変わらないような印象を受けた。しかし人が極端に少なかったり、この時期の田んぼに雑草だけが生えていたりとだんだんと被災地であると実感した。福島の人たちに何ができる

のだろうかと思っていたが、今回訪れてみるとまだまだやることはたくさんあるように感じられた。それは今回実験用の稲を刈ったことにより田んぼでの作業がどれだけ時間と労働力が必要であるかを再確認したことと、田んぼの表面をはぎ取って埋めることや水を張ることで線量を減らせるという結果が出ているため、田んぼの作業がまだまだたくさんあると予想されることからである。また、ふくしま再生の会のかたと大学が協力して実験をすすめ、その結果を公表することが復興につながると強く感じたため、その実験を手伝うボランティアも必要であると考えた。